



ハリーポッターの選択

2回目の個人面談を始めた。主として聞いているのは、①前期中間考査に関する自己分析（勝因or敗因？）と、それに関わる学習状況、及び、それに結びつけて進路のこと ②総合的な学習の時間のこと である。また、生活態度に担任が問題を感じている人に対しては、その点についても注意を促している。短い時間なので、もし相談事や質問などがあれば事前に整理しておいて、せっかくの面接なのだから、お互いにとって有意義な時間となるよう、君たちも心がけてほしい。

*

そこで、やはり進路の話になるのだが、今読んでいる本（『高校倫理からの哲学2 知るとは』（岩波書店、2012）におもしろい一節があったので引用しよう。

*

映画『ハリーポッターと秘密の部屋』を見たことがあるだろうか。この作品のなかで、ハリーは自分の所属する寮が自分にふさわしくないのではないかと思ひ悩む。この学校では「組み分け帽子」という三角帽子が、かぶった生徒の頭の中を見透かして、生徒の素質に合わせて寮を決めることになっている。だが、ハリーに関しては、その素質を見分けるのに手間取ってしまい、寮の選択を彼の意志に任せたとである。そう言われて迷っているハリーに対して校長先生は、「ハリー、自分が本当に何者かを示すのは、持っている能力ではなく、自分がどのような選択をするかということなんじゃよ」という言葉を投げかけ

る。

校長先生のいう意味は、「自分」がどこかに探し出さなければならない何か生まれつきの備わった能力のようなものではないということだろう。そうだとすれば、この言葉は自分が何に向いているのかに悩んでいる者にとっては救いかもしれない。はてしなく「自分」を探すことなど無駄だと言ってくれているからである。その代わりに、求められるのは「どのような選択をするか」である。「本当に何者かを示す」ということは、自分が何であるかを自分で決め、その選択を引き受けることなのである。

*

なかなか示唆に富む話だと思う。自分が何者なのかは、自分の選択によって示されるということであれば、まさしく君たちがこれからする選択によって、君たち自身は何者なのかということが示されるということだ。そしてその前提に「自分が何であるかを自分で決め」とあること注意したい。

自分にふさわしい「何かがある」のではない。自分にふさわしい「何かを自分で決める」のである。このことの持つ意味をしっかりと認識してほしいものだ。

3年生の夏休みは、受験の天王山ともいわれ、色々な意味で余裕がなくなるだろう。その意味では、自分が何者なのかを考える（＝自分の進路を考える）のに、今年はイイチャンスなのである。夏休みの計画の中に、そんなことも含めてほしい。

*月曜日から2510●●さんが留学から戻ってきます。暖かく25Rの一員として迎えよう。